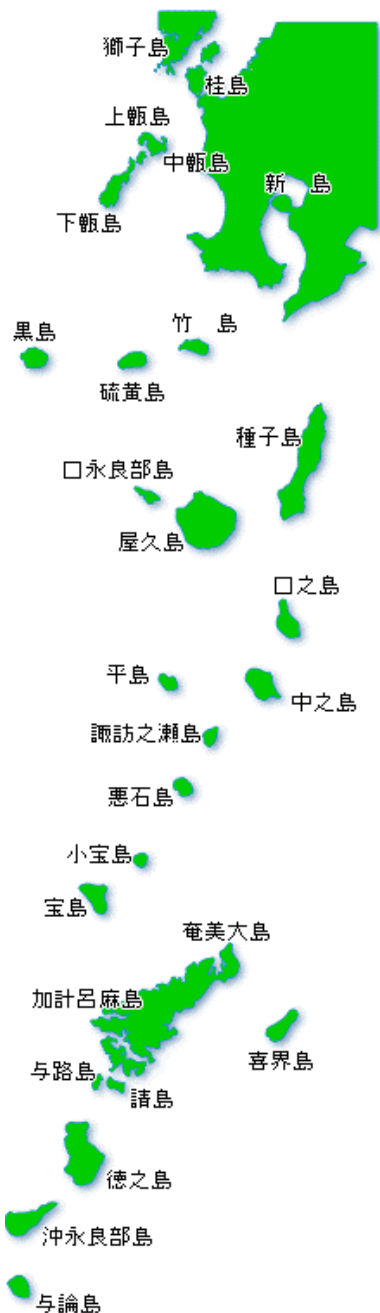


交流・移住・観光で島の元気を応援！

かごしま・島交流の会



○かごしま・島交流の会とは

私たち「かごしま・島交流の会」は、薩南諸島と都市圏の交流活動を行なっている民間団体および個人有志によって結成されました。鹿児島島の島々の「交流・移住・観光」の促進とネットワークづくりを進めています。

○島交流の会スタートの経緯

鹿児島県は、日本列島の南端に位置し独自で多様な歴史、文化、食材など多くの地域資源や観光資源に恵まれ、田舎暮らしの候補地としても団塊世代や若者世代に高い人気があります。そんな鹿児島島の魅力をアピールしようと、2008年4月より、東京有楽町で、鹿児島県主催の「かごしま移住・交流ワークショップ in 遊楽館」が始まりました。移住・交流の促進が活発になってきた社会的機運もあつてのことと思いますが、遊楽館ワークショップでは、行政や民間の垣根を越えた集まりができました。そして、与論島、沖永良部島、奄美大島、屋久島など都市との間で交流活動を行っている在京の民間団体の輪が生まれたことが会の始まりとなりました。

2008年12月、「かごしま・島交流の会」が発足しホームページを開設しました。その後、ネットワークは徐々に広がり、2009年11月、会則・代表・会計等の組織体制を定めました。現在、非営利の任意団体として活動を行っています。

○現在の構成

ヨロピア計画(与論島)、えらぶ移住支援センター(沖永良部島)、NPO 法人トカラ・インターフェイス(トカラ列島)、NPO 法人屋久島移住ネットワーク・緑の風(屋久島)、社団法人へきんこの会(口永良部島)の他、奄美大島、喜界島、種子島、甌島など薩南諸島を中心とする全国の島の出身者、在住者、愛好者等個人及び団体、企業が参加しています。

○薩南諸島について

かごしまの島嶼部を本土から見ると、“自然豊かな暖かい南の島”のイメージがあり憧れの地となっています。移住を考える人にとっては南の島のイメージが先行し、その後、沖縄、奄美、種子・屋久などの島の中から候補地を絞り込んでいくというパターンが案外多く見受けられます。琉球・奄美と薩摩の島は歴史的・文化的背景が相当異なりますが、外部の人間にとって南西諸島は境目のない島々と映っています。

薩南諸島(地理的に与論島から三島までを指す)の人口は約16万9千人(内奄美群島は約12万1千人)、面積は2360平方キロメートル(奄美は1240平方キロメートル)。鹿児島県の総人口171万人の約1割を占め、面積は県土の4分の1です。奄美と種子・屋久を全部合わせると大阪府や東京都より大きくなります。薩南諸島は、人口は少なくとも広いのです。

○島を元気にするために、一緒に活動しませんか？

人口減少時代を迎え島の過疎化が進んでいます。就職先は少なく不況の影響で地域の疲弊は進んでいます。島々の特性を生かし、自然と伝統を守りながら、困難を乗り越えて発展する方法を見つけられればと思います。島を元気にしたいという想いは、島内だけでなく、都会の島出身者の中にも満ち溢れています。その想いを形にするため、「しまのがっこう」の開催や「島カフェ」づくり等を通じて島と都会、島と島をつなぎ、交流を活発にしたいと考えます。

島で生まれた若者がふるさとで働くことができ、ターン者を迎えられるように、農業漁業の6次化等伝統産業の再生や観光等新規産業の創造で地域の仕事を増やすためにも、島々の「交流・移住・観光」を進めて島の元気を応援していきたいと思っています。私たちと一緒に、島交流の活動をしてみませんか。

かごしま・島交流の会 ホームページ

<http://shimakouryu.iju.jp/>

E-mail shimakouryu@iju.jp

080-5485-1440